

## 瀬田川のシジミ資源のモニタリング (2018年)

酒井明久

### 1. 目的

シジミの漁獲量が低迷している瀬田川では、漁協を中心とする活動組織「瀬田川流域クリーン作戦」が、近江大橋以南の南湖および瀬田川で湖底耕耘やシジミ生息密度調査を実施している。本調査は、活動組織と連携してシジミの成長・生残を評価するために実施した。

### 2. 方法

調査は2018年4月～12月に、活動組織が調査定点とする20地点から3定点(B2、B4、C3)を選び、各定点において貝搔網3曳網で採集されたシジミの個体数と殻長を調べた。

### 3. 結果

#### 3 定点で採集されたシジミの殻長頻度分布

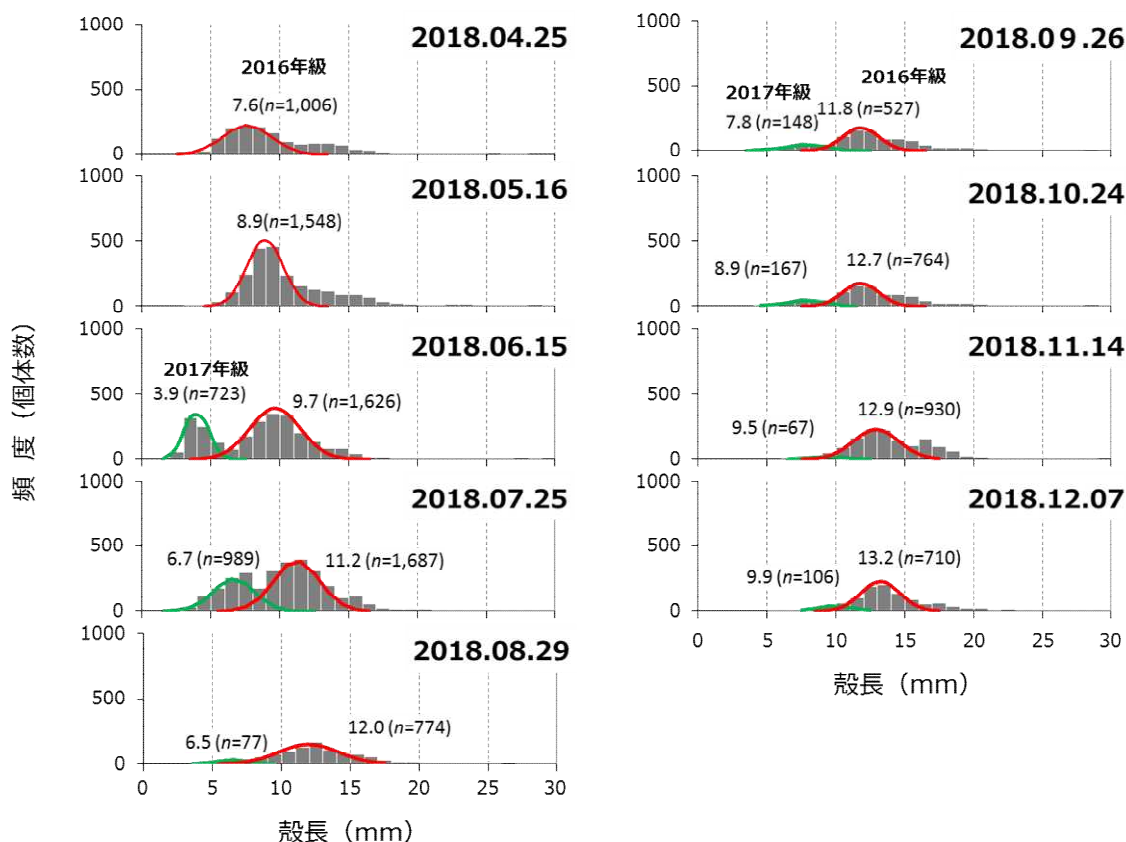


図1 瀬田川のシジミの殻長頻度分布。

貝搔網9曳網(3定点×3曳網)で採集されたシジミの殻長別個体数。殻長頻度分布を正規分布分解して年級群の平均殻長と個体数を推定した。

を図1に示した。2016年級群の平均殻長は、4月の7.6mmから12月には13.2mmに成長した。一方、2017年級群の平均殻長は6月の3.9mmから12月には9.9mmに成長した。

採集個体数の変化から、2016年級群、2017年級群ともに、2018年7月25日から8月29日の間に大きく減耗したと推定された。その減耗率を6,7月と8,9月のそれぞれの平均採集数から求めると、2016年級群では0.39、2017年級では0.13で、後者の方が大きかった。この期間中に湖底を攪乱するような増水はなかったが、瀬田川で藍藻類の大発生が確認されており(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)、これが減耗に関与した可能性がある。